会　議　録

１　会議名

令和６年度第９回板倉区地域協議会

２　議題（公開・非公開の別）

〇自主的な審議

・　自主的審議事項について（公開）

〇その他（公開）

３　開催日時

令和７年３月２５日（火）午後６時００分から午後７時００分まで

４　開催場所

板倉区総合事務所　２０１・２０２会議室

５　傍聴人の数

１人

６　非公開の理由

―

７　出席した者（傍聴人を除く。）

・委　員：小林会長、植木副会長、秋山委員、新井委員、釜田委員、小林委員、清水委員、庄山委員、中澤委員、深石委員、藤原委員、南委員、山本委員

・事務局：板倉区総合事務所　宮下所長、内藤次長、名倉次長、髙橋建設グループ長、長谷川市民生活・福祉グループ長、清水教育・文化グループ長、千葉地域振興班長、金井主任

８　発言の内容（要旨）

【内藤次長】

・会議の開会を宣言

【小林会長】

・挨拶

【小林会長】

・条例第８条２項の規定により、半数以上の委員の出席を確認。

会議の成立を報告。

・会議録の確認を深石委員に依頼。

【小林会長】

「３　自主的な審議」自主的審議事項について説明をお願いする。

【千葉地域振興班長】

・各部会から現在の進捗状況などの報告を依頼。

【釜田委員（健康福祉部座長）】

板倉区の高齢化率が４０％程度になりそうなことから、高齢者の現状を把握するためにアンケートを実施したい。まず、健康福祉部会の委員から項目案を出してもらい、それらをまとめて素案を作成した。また、地域防災部会から、防災関係の項目も入れてほしいという旨の話があり追加することとした。

アンケートの骨格として、「老人クラブの現状」、「個人の健康管理」、「介護施設利用のための情報収集方法」、「生きがい」、「地域の茶の間の関係」そして「自主防災体制の状況」。この６項目でアンケートを作ろうとしているが、現在もまだ検討中であり、地域防災関係については、地域防災部会等のすり合わせも必要になると考えている。

アンケートの調査対象は、町内会長や老人クラブの会長から回答してもらう概略的な調査と、各町内から１０人程度の高齢者に回答してもらう個人回答用のアンケートの２種類の構成で話を進めている。

今後、調査内容や方法が決定したら、回収率のアップに努め、調査結果を分析して、関係者に情報を提供し住みやすいまちづくりに寄与していきたい。

【清水委員（地域振興部会座長）】

地域振興部会では３月１３日に部会を開催した。その中で、やすらぎ荘等の区内施設において時間を決め「板倉音頭」を放送してみてはという意見が出ている。協議を経て少しずつ進めていきたい。防災無線の放送前にも「板倉音頭」を流してみたいという意見もある。可能性について検討していきたい。「板倉音頭」は若い人にはなじみがないので、ダンス風にアレンジする意見も出た。これについては中澤委

員から適任者に相談いただいている。

また、他団体との交流についても協議している。令和７年度の方向性としては学校関係者と連携しながら、次世代の子どもたちと何ができるかを考えていきたい。

【秋山委員（地域防災部会座長）】

地域防災部会では、先日の協議会以降に会合はなく進展はない。繰り返しになるが、本来あるべき姿、将来に望む姿として「災害時の逃げ遅れゼロ」がある。全ての人命を守るための方策をこれから検討していく。健康福祉部会と連携しアンケートを進めていく。

【小林会長】

アンケート内容については、健康福祉部会と地域防災部会で、来月の会議までには共有化を図れるよう早急に進めてほしい。地域振興部会は引き続き検討をお願いしたい。

以前、中郷区でも住民アンケートを実施したが、当時中郷区の次長だった内藤次長に状況を教えていただきたい。

【内藤次長】

中郷区は地域協議会全体として取ったアンケートで、質問も地域協議会委員の皆さんで考えた。中学生以上の全住民を対象とし、ウェブ回答もできるようにした。高齢者には町内会長にアンケート用紙を配ってもらい回答率を上げた。アンケートによって、住民の皆さんがどういうことを望んでいるか、中郷区の魅力はどんなことかを把握し、内容によっては市へ意見書を出したり、地域協議会で検討したりと、活用することができた。

【小林会長】

健康福祉部会と地域防災部会で参考にしながら、板倉方式で新たなアンケート内容を考えていただき、次の会議には報告してほしい。

【釜田委員】

地域防災に関するアンケートは、若い方から年老いた方まで全員が対象だと思うが、健康福祉部会では高齢者のみを対象としたので、地域防災部会とやり取りさせていただきたい。若い人の意見をどう取り組んでいくかが健康福祉部会の課題。

【秋山委員】

防災部会として対象と考えているのは、避難弱者、要支援者、高齢者、障害者の方をどのようにして守っていくかがメインになるので、その部分では健康福祉部会とは一致するのではないか。

【小林会長】

いずれにしても両部会で、アンケートの範囲を含めて内容を検討いただけるようお願いしたい。

【小林会長】

それでは次に、地域フォーラムについて事務局から説明をお願いする。

【千葉地域振興班長】

地域フォーラムに関してのアンケートは、会議終了後に用紙を回収させていただくが、この場でも、お一人ずつテーマや実施方法を中心に発表をお願いしたい。

【小林会長】

それでは、一言ずつ皆さんの考えを発表していただきたい。

【山本委員】

地域フォーラムについては、「地域協議会と活動団体等の意見交換会やアンケート調査などと関連してテーマを考える」でいいと思うが、私は山部地区連絡協議会の会長なのでいろいろと意見交換をした際、問題点が次から次へと出て、例えば空き家の町内会費、共同作業での人手不足、防災、農業後継者など、各町内会が同じような課題を抱えている。町内会長連絡協議会は全部の町内会長が入っているわけだが、各町内会長と意見交換するのもよいと思う。各部会がまとめている方向性や考えを町内会長さん方にも少し周知した方がいいと思う。

【南委員】

教育、子育てなどいろいろ考えた中で「コミュニティの繋がり」が一番であり、地域の歴史や文化が共有する取り組みを次世代に伝えていくテーマや、多様性と包摂性を促進するため、いろいろな住民が参加できるような環境づくりをテーマとしてはどうか。

実施方法としては、基調講演とパネルディスカッション等のよくあるパターンで

はなくて、参加者が意見を出し合えるようなワークショップ形式がよいと思う。

【藤原委員】

こういったものをやろうとすると、声が大きい人の声は届きやすいので、言いたくても言えないような人へのアプローチをどうするか考える必要があるが、まだ細かいところまで考えていない。

【深石委員】

若者がふるさと離れをしているので、人口減少に歯止めをかける取組に対応したまちづくりが必要ではないか。若い人たちにとって魅力的な職場の不足、観光資源のアピール不足、子育ての不安等があるのではないか。

実施方法として、これらの対策を実施している市町村の取組などを紹介してもらう基調講演と事例発表、その後のワークショップなど、グループごとに板倉区ではどのようにしていくか意見を出し合う方法がいいと思う。

【中澤委員】

誰を対象にして誰に向けてメッセージを発するかが軸になると思うので、悩んでいる。テーマはたくさんあるし、やらなければならないことや伝えたいことはたくさんあるが、どこに向けて発信していくかという軸が決まらず、なかなか絞り切れていない。

地域の方々が情報発信をする場とすれば、例えば現在、有恒高校の１年生と地域の活性化について授業を進めているが、その発表の場となってもいいだろう。もう少し整理しながら、フォーラムに向けて、皆さんにまた提言できるようにしたい。

【庄山委員】

地域フォーラムについては特に意見はない。

去年の６月に総合政策部で地域自治プロジェクトの検討状況が公表され、その前段に「地域のことは地域で決めて地域で実行する」「地域自治の活動を活性化する皆さんの仕組みを取り入れる」と謳われている。だが「地域」とはどこを指しているのかは曖昧である。板倉区のことなのか広域なのか町内なのか、あるいはそれらを全部含めて「地域」と言っているのか。もう少し整理しないと、地域が元気になるような施策を打ち出すことができないと思っている。

【清水委員】

やはり今、米が大幅に値上がりし農業が問題になっているので、農業が重要なこの地域としては一番大きな問題ではないか。山本委員の発言にもあった後継者問題。それから民間企業が大幅に土地を購入して大規模農業を経営している現状に不安との意見もある。農業問題について、大規模経営者、個人事業主、旧生産組合等の団体から意見を求めながら、今後の農業の方向性を考えてみたらどうか。

【小林委員】

記載例の「地域協議会と活動団体との意見交換」では、いろいろな活動団体があるので、その方々との意見交換は大変良いと思うし、板倉って良い所だと思えるような何かを考えていけたらと思う。そのためには、何でも盛り上げていけるリーダーの存在についても考えていけたらいいと思う。

【釜田委員】

地域フォーラムのテーマとしての答えは出ていない。もし町内会長たちが出ていただけるようなフォーラムであれば、健康福祉部で行うアンケートを説明させていただきたい。ワークショップの場で言えなかった意見や質問については、後日、紙やメール等で提出いただき、重要なものは広報等でお知らせしていただきたい。

例えば、板倉工業団地の大規模な企業から、板倉区に期待を寄せている点・困っている点・または良い点などを代表者から聞くようなことがあってもいいと思う。

地域自治プロジェクトについては、アンケートで賛同が多い意見が良いとされてしまうが、少数意見でも良い所があれば市として生かしていく形でやっていただきたい。

【新井委員】

よりよいまちづくりにするためには、先ずは若者が流出しないようにしないと、農業や伝統文化を継承していくことは、なかなか難しい。

私は地域防災部会だが、国、県、市、メディアでも発信しているように、とにかく安全に関しては同じことを繰り返し言い続け、自主防災組織の重要性に結びつけていただきたい。

【秋山委員】

テーマとしては、後継者の育成、地域活動の担い手不足。それを解消する方法としては基調講演とワークショップが良いと思う。また、地域コミュニティの一体感が希薄化していることと、地域に対して無関心な人が多いということを感じている。

地域自治プロジェクトを読むと、住民の意向を捉えるには懇談会やアンケートとの事だが、地域協議会で地区ごとに懇談会を行った結果、行政に対する要望が多かった。

【植木副会長】

テーマは事前に配布して、町内会の協議員など様々な方からの意見をまとめて、その結果をワークショップで活かしたらどうか。

上越自転車まつりのヒルクライムは、今年は９月に実施すると初めて聞いた。昨年よりも規模を大きくして頑張られているが、９月の稲刈り時期に関田の道路が通れなくなり住民に迷惑がかかると思った。また実施にあたり市職員は残業が続き、私も動員となると年齢的に体力に自信がない。話し合いが足りなさすぎる。もう少し皆さんと意見交換する場があってもいいのではないか。それがフォーラムの形でも良いと思う。ヒルクライムを継続していくならば、真剣にみんなで相談しなければいけない。

消防についても、市議会議員は「初期消火は自分たちで」と言っていたが、高齢者しか残ってないこの地域で消火活動ができるのか。自宅に消火器を設置する義務ぐらいにしていた方が良いと思う。消火栓は糸魚川市みたいに家が密集していたら効果が出ると思うが、それにお金をかけるのはどうなのかと思った。

板倉区は上越市で第２位の「地域独自の予算事業」の予算をいただいているが、この予算のない時期に、もっとシビアにもっとお金を大事に使うことを考えた方がいいのではないか。

ごみ焼却炉は妙高市のものを使えないか。直江津まで持っていくのは大変で軽トラックを借りるのも大変。その点を市議会議員にがんばってもらいたい。妙高市の焼却炉にせめて春だけでも持ち込めるとか、何か少し恩恵があるとありがたい。

私は次男の帰省のたびに戻ってきたらと言うが嫌だと言われる。暗くて何もなく遊びに行く所がないとのことである。しかし長男は、温泉は良いし米や酒もおいし

い、こんなに良い所はないと言う。家の周りでいつも花を植えていて、私も一緒に農業をやっていた。やはり親の姿を見てもらい農業は大変だけど汗をかいた後でおいしいものが食べられる幸福感を若い子たちに根付いてもらえれば一番ありがたい。もっと地元の人と話し合って切磋琢磨し、板倉をよくしていければと思う。

【小林会長】

板倉は元気がないということで、地域協議会としてイニシアチブを取っていきたい。そのための一つの起爆剤としてフォーラムを提案した。板倉にとって、人口減少と高齢化、そして過疎化が急速に進展していて、これからは共に助け合い支え合うという気持ちであり「共助」が一番大事だと思う。フォーラムに色々な人から参加いただき、皆さんに動機付けというか発想を変えていただくために、まずはアドバルーンを揚げてみたいのでご理解とご協力をお願いしたい。

山本委員から、町内会長全員の話し合いの場という意見があった。今年は２年目で、各部会の報告会を兼ね６地区連絡協議会との意見交換を考えている。行政上の要望ではなく、地域協議会が主体となって話し合いを進めていく予定にしている。

色々な課題は後ほど整理をして、地域協議会として取り上げるべきかどうかの選別が必要である。また皆さんと検討、協議をさせていただきたい。

フォーラムについては、個人的に、参加者は全町内会長やまちづくり振興会の役員、各団体の代表者、民生委員、防災士等の代表者含めて、総合的に話し合いができればと思っている。具体的にワークショップについては、事務局から説明をお願いしたい。

【千葉地域振興班長】

フォーラムの開催方法については、今日皆さんから回収させていただいた用紙を参考に、皆さんと相談しながらもう少し詳細を詰めていきたいと思うが、ワークショップという話も出たので、一つの例として提案させていただく。

上越市には、創造行政研究所という市役所内のシンクタンクを担う組織があるが、「持続可能な地区別まちづくり支援事業」に取り組んでいる。

・「地元関係図」の説明と昨年モデル地区で開催した事例を紹介

ただ、関係図を作ることが目的ではなくて、それを作ることによって、板倉区の

課題は何かとか、逆に板倉区の魅力は何かということを発見して、それをどうやって定住に結びつけていくか話し合うことが重要になってくる。昨年ワークショップを実施した区では、その後も継続して検討が進められ、ワークショップのメンバーを含めた新たな団体ができて、課題解決に向けた取り組みが始まっていると聞いている。

創造行政研究所が、新たにワークショップを実施する地域を募集するという話を聞き、板倉区総合事務所として手を挙げたいと考えていたところなので、地域協議会も関わっていただいたらより良いワークショップになると思い、本日提案させていただいた。また、板倉中学校１年生保護者が、ＰＴＣ活動として「未来のまちを考えるワークショップ」の実施を考えていると聞いた。自分たちの住みたいまちをレゴブロックで作りながら板倉区の未来を考えるのだが、それも創造行政研究所が支援している事業なので、先ほど私が言った地元関係図の住民ワークショップと、中学生が行うワークショップが連携できれば、さらに良いアイデアが生まれるのではないかと考えている。

【小林会長】

今ほど説明があったように、板倉区に将来ビジョンやグランドデザイン的なものがないので、地域住民を巻き込んで、将来に向けて方向性を示すことが一番良いのではないか。ワークショップの内容、実施時期等について、話を進めていってもよいか。では、事務局の方で創造行政研究所と内容を詰めていただければと思う。

では、４その他、事務局から何かあるか。

【内藤次長】

廃校利活用のサウンディング型市場調査の実施について、昨年８月の地域協議会の時に、旧寺野小学校の利活用に関するサウンディング調査の準備を進めているということを報告した。このたび、旧寺野小学校も含めた市内の廃校を同時に調査することになったのでお知らせする。市では、令和５年度に、安定した財源の確保や将来的な財政負担を軽減するために、売却可能な資産処分に力を入れていくということで資産活用課を新設した。今回、市内のまだ利用されていない廃校１５施設を対象に調査を実施することとした。板倉区では旧寺野小学校のほかに、旧宮嶋小学

校、旧山部小学校も含まれている。まだ調査の段階であるため、民間事業者等から良い提案があれば、地域とも十分協議をして、改めて譲渡や貸付について検討していくということになる。スケジュール的には、調査の実施要領の公表が今年の４月上旬、説明会の開催が４月下旬、現地見学５月、対話調査６月ということで予定している。調査の結果はホームページ等で公表すると聞いている。

【小林会長】

質問、意見はあるか。

（なし）

【植木副会長】

・閉会の挨拶

【内藤次長】

これで、第９回板倉区地域協議会を終了する。

９　問合せ先

板倉区総合事務所　総務・地域振興グループ

TEL：０２５５－７８－２１４１（内線１２３）

MAIL：itakura-ku@city.joetsu.lg.jp

１０　その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。